



「ことのは」

「発行者」龍野東中学校 校長 日下博文

第32号 (10月号)
令和4年10月28日

不屈の闘志

「二泊三日の修学旅行」

この時期になると、どの学校にもあるキンモクセイ(金木犀)の香りを風が運んできます。学校では、四月から始まった新学年での生活も充実期(実りの秋・文化の秋)を迎えています。本校でも充実期にふさわしい行事をたくさん執り行うことができました。

まずは、延期をしておりました修学旅行を十月四日から二泊三日で無事に行うことができました。(二泊三日で行うのは三年ぶり)

修学旅行は行き先も大切ですが、卒業後には、ばらばらになる「仲間や先生たちと濃密で大切な時間を過ごすこと」が一番大切だと考えています。

二つめに大切なことは、「生活力」です。親元を離れた子ども様子を寝食共にして観ると、一人一人のことがよくわかります。学校で見る様子と同じとうなずけること、あるいは、こんな一面があったのかと驚きや喜びを感じることはありません。いずれにしても、観る尺度の柱は自立するために必要な「生活力」です。時間を守ることや、部屋や荷物の整理がきちんとしていけることなどがこの例になります。

お世話になったホテルの方や添乗員の方から、本校生徒の「生活力」についてたくさんお褒めの言葉(ことのは)をいただきました。

旅行先は沖繩から近畿圏に変更になりましたが、天候にも恵まれ、笑顔に溢れた貴重な時間を過ごせたことをとても有

り難しく思っています。



「合唱コンクールと文化祭」

キンモクセイの香りに気づく頃、学校には生徒たちの歌声が広がります。

各学級で歌う合唱曲の選曲をし、パートリーダーを決め、パートごとに課題曲と自由曲の練習を進め、各パートの歌声の調和を図っていきます。

三年生は、これまでの経験を生かし、中学校生活最後のコンクール・文化祭へ気持ちを込めて取り組みます。二年生は、昨年初めて舞台に立った経験を踏まえて、より質の高さを求めて取り組みます。一年生は、初めての合唱に緊張をしながらも、仲間と協力することの大切さを学びます。

小学校では、楽器を使った合奏を主にいますが、中学校では主に合唱に取り組みます。中学生の合唱の良さはどこにあるのでしょうか。

私は、三年間の中で成長とともに声の質も変わっていき、一年生の頃とはまったく異なった合唱ができあがっていく喜びにあると思います。初々しい一年生の発声、学年が上がるごとに大人に近い声になっていき、澄んだソプラノやアルト、力強いテノールやバスの声が、美しいハーモニーを生み出します。そこに私たち教師も生徒も確かな成長を感じることができま

す。

そして今年も、文化祭当日、赤とんぼ文化ホールで悔いのない合唱を創り上げたときの生徒の歓喜する姿をみて、確かな龍野東中学校のあゆみを感じることができました。

感染防止のためホールには保護者の方々をお招きすることはできませんでしたが、PTAからの援助を受け、すばらしい文化祭を執り行えたことに、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



「トライやるウィーク」

最近、全国の家裁裁判所で少年事件の記録が廃棄されていることがニュースになっています。神戸家裁裁判所でも平成九年の神戸連続児童殺傷事件の記録が廃棄されています。当時を知る者として心に感じるものがあります。

この事件をきっかけに、心の教育の充実に向け、翌年の平成十年から兵庫県が独自に始めた活動が、五年生での自然学校と中学二年生でのトライやるウィークです。今では全国へ広がっています。

「トライやる」という言葉には二つの意味が込められていて、一つは、学校では学ぶことのできないことにトライ(チャレンジ)

ジ)するという意味。そしてもう一つは、学校・家庭・地域の三つがトライアングルのように協力し、地域全体で子どもを育ていく(孤立する子どもを作らない)という思いが込められています。学校を離れ、地域で活動することの意義がここにあります。

コロナ禍になってトライやるウィークの中止や廃止が検討されることがあります。しかし、私は、「この事業に代わる経験は、校内では、絶対に作り出せない。」と考えています。

今年度、本校では感染状況によって、中止になったり、できたとしても事業所の確保ができなかったりするところが想定されました。しかし、二年部の先生方を中心に、例年より三月月ほど早い五月頃から事業所の新規開拓も含めた準備を進めてくださいました。

先生方の頑張りもあり今年度は三年ぶりとなるトライやるウィークを十一月七日(十一月)まで市内の事業所を中心に実施の運びとなっています。

各ご家庭でも是非とも話題にしていたいただきたいと思っています。

